

実務実習モデル・コアカリキュラム

「評 価」

1. 評価の手引(案)
2. 基盤をなす評価の詳細(案)

Ver.1.1

平成 18 年 11 月

日本薬学会薬学教育改革大学人会議
実務実習指導システム作り委員会

はじめに

中央教育審議会から提出された「薬学教育の改善・充実について」に関する答申（平成16年2月18日）において、「薬剤師の養成のための薬学教育については学部段階の修業年限を4年から6年に延長」することが提言された。この答申では同時に、実務実習の受け入れ体制・指導体制の整備、共用試験の実施、第三者評価の実施、の三項目が、年限延長に伴い、薬学関係者が協力して実施体制を構築すべき課題としてあげられている。日本薬学会では、薬学教育改革大学人会議を設置し、実務実習、共用試験、第三者評価の各課題に対して取り組む委員会を設け、ワークショップ開催やアンケートを通して意見の集約と発信を行ってきた。

平成16年10月に設置された実務実習指導システム作り委員会（以下、本委員会）では、実務実習モデル・コアカリキュラムの実施に向けて、カリキュラムの三要素の一つである“評価”の作成に取り組んできた。二回のアドバンスワークショップ開催並びに作成会議等を経て、平成18年2月には評価案が完成した（詳細な作成の経緯は19頁参照）。平成18年度に入り、本委員会に新たに日本薬剤師会と日本病院薬剤師会からの推薦委員を迎え、2月に作成された評価案について検討した。この評価案は原案としては適切であり、**大学で実施する事前学習については利用可能**と判断した。しかし、病院実習と薬局実習に関しては、教育学関連用語や表現の使用が実務薬剤師にとって分かりにくく、普及が困難ではないかとの意見が特に実務薬剤師から出された。そこで本委員会では、病院実習と薬局実習の評価案をより理解しやすく、かつ実施可能なものにするための作業を行った。

その結果、病院実習・薬局実習における評価を、実務実習モデル・コアカリキュラムの**【評価の手引(案)】**としてまとめることができたので、ここに報告する。アドバンスワークショップおよび作成会議等で提案された到達目標ごとの評価（案）は、“**基盤をなす評価の詳細(案)**”として掲載したので、**【評価の手引(案)】**と合わせて活用して頂ければ幸いである。なお事前学習の評価については、“**基盤をなす評価の詳細(案)**”の活用を提案する。

今回提案する評価は「*形成的評価*」を目的としたものであり、「*総括的評価*」については今後さらに検討を重ねていく必要がある。

平成18年11月

柴崎正勝

日本薬学会薬学教育改革大学人会議座長

中村明弘

日本薬学会薬学教育改革大学人会議 実務実習指導システム作り委員会委員長

目 次

	ページ
1. 評価の手引 (案)	1
1-1. 実務実習の評価に関する方針	2
1-2. 病院実習・薬局実習における評価時期、測定者、評価方法	3
1-3. 病院実習・薬局実習の評価の提示について	4
1-4. 病院実習 評価の手引 (案)	5
1-5. 薬局実習 評価の手引 (案)	13
2. 基盤をなす評価の詳細 (案)	20
2-1. 作成の経緯	21
2-2. 事前学習評価 (案)	22
2-3. 病院実習評価 (案)	25
2-4. 薬局実習評価 (案)	30
3. 参考資料	35
3-1. 評価方法作成会議参加者リスト	36
3-2. 実務実習指導システム作り委員会委員	39

実務実習モデル・コアカリキュラム

病院実習・薬局実習

1. 評価の手引(案)

Ver.1.1

1-1. 実務実習の評価に関する方針

A. 評価方法に関する用語

アドバンスワークショップ並びに作成会議で提案された“**基盤をなす評価の詳細(案)**”では、「～試験」という表現が用いられている。この表現は総括的評価のイメージが強いので、形成的評価が目的の場合には「**確認**」という語句を用いることにした。

そこで原則として、病院実習、薬局実習共通で、到達目標の領域に応じて次のような評価方法を提案することとした。

- ・ **知識**に関する到達目標 : 「**口頭での確認**」
- ・ **技能**あるいは**態度**に関する到達目標 : 「**観察での確認**」

B. 評価時期と評価の内容

第5回アドバンスワークショップでの提案内容は、病院実習がユニット毎に実習が進行するのに対し、薬局実習は全体を3期に分け、段階的に学習内容を深めていくというものであった。本委員会では、アドバンスワークショップで提案された到達目標ごとの評価時期を参考に、評価の実施時期を次の3通りに分けることにした。

- 「**日々行う**」場合
- 「**実習の進行に応じて行う**」場合
 - ◆ **小見出しあるいはユニット終了時**に行う : **知識・技能**
 - ◆ **実習の中期及び後期**に行う : **医療人としての態度**

「日々行う」評価は、その場で学生にフィードバックすることを目的にして行うもので、「知識」の評価は「口頭での確認」のみとし、「技能・態度」の評価は「観察での確認」のみとした。ここで「態度」に関しては医療人としての態度のみならず、実習生としての実習態度（遅刻、無断欠席、私語など）も評価対象とすることとした。

「小見出しあるいはユニット終了時に行う」評価は、2～3週間毎に行い、実習生へのフィードバックばかりでなく、指導者の実習効果の見直しも考慮することを目的で行うものとする。ここでの「**知識**」の評価は「**ペーパーテストでの確認**」のみとし、「**技能**」の評価は「**実地試験での確認**」とした。

「実習の中期及び後期に行う」評価は、医療人としての態度の醸成についての評価を目的としており、指導薬剤師と大学教員が共同で面談やレポート収集を行い、最終的には大学教員が評価することが望ましいと考える。

「小見出しあるいはユニット終了時に行う」評価、および「実習の中期及び後期に行う」評価の項目数は、病院実習と薬局実習の進め方の相違に基づき異なっている。

以上の評価方針を次頁にまとめたので、この方針を念頭において[**評価の手引(案)**]を活用して頂きたい。

1-2. 病院実習・薬局実習における評価時期、測定者、評価方法

A. 日々の評価：その場でフィードバック

→[評価の手引(案)]青色表示

指導薬剤師が実施するが、評価内容は全国レベルで準備する
知識領域の評価は「口頭での確認」→口頭で確認できないときは自習も可
技能・態度領域の評価は「観察での確認」

- ・ 医療人としての態度だけでなく、実習生の学習態度も評価対象とする
：遅刻、無断欠席、私語など
- ・ 「確認のためのキーワード集」等を作成あるいは日本薬剤師会、日本病院薬剤師会等によって発行されている既存の資料から引用する予定

<確認の例>

薬局にある剤形を確認

→「当該薬局における代表的なカプセル剤を3種類あげてみよう」
観察記録→「あいさつしているか？」

B. 小見出しあるいはユニット終了時の評価（知識・技能）

→[評価の手引(案)]赤色表示

指導薬剤師が実施するが、評価内容は全国レベルで準備
個々の学生ごとに実施（2～3週間ごと）

：学習者へのフィードバックと共に、実習計画の見直しを考慮

知識領域の評価は「ペーパーテストでの確認」

：単元ごとにペーパーテスト、CBT形式、項目チェック形式などが可能

技能領域の評価は、「実地試験での確認」

残された問題点：技能の修得に応じて、態度も醸成されてくるか？

実地試験は現場で実施可能か？

C. 医療人としての態度の醸成に関しては、大学教員が評価することが望ましい 中期および後期（あるいは特定の教育目標に応じて）、レポートおよび面談

→[評価の手引(案)]橙色表示

レポートは、医療人としての成長の確認→指導薬剤師と大学教員が共同で行う
時期と場所は、実習施設と大学が協議して決める（開催方法を例示する予定）

D. 学習記録（教育目標および実習内容の達成度、感想など）

→大学が基本フォーマットを作成し、必要に応じて指導薬剤師および大学教員
が利用

毎日、隔日、週のまとめ、とするかは、実習施設と大学の協議で選択

1-3. 病院実習・薬局実習の評価の提示について

～実務実習モデル・コアカリキュラム方略表への評価（案）追記～

実務実習モデル・コアカリキュラムの病院実習・薬局実習に対する**【評価の手引(案)】**において、評価の目的、時期、測定者は以下の通りである。

- ・ 評価の目的：すべて「*形成的評価*」
- ・ 評価の時期、測定者：1-2に記載（前頁参照）

そこで、評価対象と評価方法を提示するに際し、方略と評価を同時参照できるようにする目的で、実務実習モデル・コアカリキュラムの方略表に評価案を併記することとした。なお、この方略表への評価案追記については文部科学省の了解を得て行った。

評価方法は、本来、到達目標（SB0）ごとに提案されるべきものであり、個々のSB0に対する具体的な評価方法は、アドバンスワークショップ並びに作成会議で提案された**“基盤をなす評価の詳細(案)”**を参照して頂きたい（20頁）。

次頁以降に示した病院実習、薬局実習の**【評価の手引(案)】**では、実務実習モデル・コアカリキュラム方略表を利用し、“**評価対象**”は各到達目標のあとに**知識、技能、態度**を明示し、“**評価方法**”の欄は表の右端に追加した。

また薬局実習では、評価案作成の過程で、学生の実習進行あるいは習熟度に応じて全体をおおよそ3期（Ⅰ～Ⅲ期）に分けることが提案された。これに応じて**方略の実施時期**も提案されたので、評価案に加え、“**実施時期**”の欄を表の左端に追加した。（なお、実施時期の表示のないSB0は、特に時期を指定しないものである。）

本表では、実務実習モデル・コアカリキュラムのユニット、小見出し、到達目標、方略、評価方法、薬局実習では実施時期、を一覧することができる。実務実習計画の立案ならびに実施の際に活用して頂ければ幸いである。

実務実習モデル・コアカリキュラム

(Ⅱ) 病院実習

評価の手引(案)

－ 方略表への追記－

(Ⅱ) 病院実習方略ならびに評価の手引き(案)

(1) 病院調剤を実践する

学生数は1施設に5名以内

LS	到達目標(SBOs)	学習方法	場所			人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者との 関わり	備考	評価案	
			薬剤部	病棟・ 外来	その他	指導 薬剤師	補助者	教員					日々の 評価	実習の進行に 応じた評価
《病院調剤業務の全体の流れ》														
H101	<ul style="list-style-type: none"> ◎患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる。(知識) ◎病院内での患者情報の流れを図式化できる。(知識) ◎病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。(知識) ◎生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度) ◎医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。(態度) ◎職務上知り得た情報について守秘義務を守る。(態度) 	説明・見学	○		病院 全体	1		1 注1	プリント・ OHPなど	90×2			口頭・観察 での確認	
H102	<ul style="list-style-type: none"> ◎薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる。(知識) ◎処方せん(外来、入院患者を含む)の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる。(知識) ◎病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。(知識) 	説明・見学	○			1				90×2			口頭での確認	
《計数・計量調剤》														
H103	◎処方せん(麻薬、注射剤を含む)の形式、種類および記載事項について説明できる。(知識)	説明	○			1				90×1			口頭での確認	
H104	<ul style="list-style-type: none"> ◎処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる。(知識) ◎代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。(知識) ◎薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる。(知識) 	実習	○			1		1 注1		90×3			口頭での確認	
H105	◎適切な疑義照会の実務を体験する。(知識・技能・態度)	演習	○			1	医師1	1 注1		90×2			口頭・観察 での確認	
H106	◎薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる。(知識・技能)	実習	○			1				90×2			口頭・観察 での確認	
H107	<ul style="list-style-type: none"> ◎処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。(技能) ◎錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる。(技能) ◎調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。(知識) ◎代表的な医薬品の剤形を列挙できる。(知識) ◎代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。(技能) ◎医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。(知識) ◎代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。(知識) ◎異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。(知識) 	実習	○			2		1 注1		90×20			口頭・観察 での確認	

LS	到達目標(SBOs)	学習方法	場所			人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者との 関わり	備考	評価案	
			薬剤部	病棟・ 外来	その他	指導 薬剤師	補助者	教員					日々の 評価	実習の進行に 応じた評価
H108	◎毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる。 (技能)	実習	○			1				90 x 1			観察での確認	
H109	◎一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。 (知識・技能)	実習	○			1				90 x 1			口頭・観察 での確認	
H110	◎散剤、液剤などの計量調剤ができる。(技能) ◎調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的な取扱いが できる。(技能)	実習	○			2		1 注1		90 x 15			観察での確認	
H111	◎細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる。 (知識) ◎特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱い を体験する。(技能)	説明・演習	○			1				90 x 2			口頭・観察 での確認	
H112	◎錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、 実施できる。(知識・技能)	実習	○			1				90 x 1			口頭・観察 での確認	
H113	◎調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。 (知識・技能)	説明・演習	○			1				90 x 2			口頭・観察 での確認	
《服薬指導》														
H114	◎患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付 できる。(知識・技能)	説明・演習 ・実習	○			1		1 注1		90 x 5	○		口頭・観察 での確認	
H115	◎患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの 取扱い方を説明できる。(知識・技能)	説明・演習 ・実習	○			1				90 x 2	○		口頭・観察 での確認	
H116	◎自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その 取扱い方を説明できる。(知識・技能)	説明・演習 ・実習	○			1				90 x 2	○		口頭・観察 での確認	
H117	◎お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法 および使用上の注意について適切に説明できる。 (知識・技能・態度) ◎期待する効果が十分に現れていないか、あるいは副作用が 疑われる場合のお薬受け渡し窓口における適切な対処法に ついて提案する。(知識・態度)	演習・実習 ・SGD	○			1		1 注1	OHPなど	90 x 10	○		口頭・観察 での確認	ペーパーテスト ・実地試験 での確認
《注射剤調剤》														
H118	◎注射剤調剤の流れを概説できる。(知識)	説明	○			1				90 x 1			口頭での確認	
H119	◎注射処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量 など)が整っているか確認できる。(知識・技能) ◎代表的な注射剤処方せんについて、処方内容が適正である か判断できる。(知識・技能)	実習	○			1		1 注1		90 x 5			口頭・観察 での確認	
H120	◎適切な疑義照会の実務を体験する。(技能)	演習	○			1	医師1	1 注1		90 x 2			観察での確認	
H121	◎処方せんの記載に従って正しく注射剤の取りそろえが できる。(知識・技能)	実習	○			2				90 x 10			口頭・観察 での確認	
H122	◎注射剤(高カロリー栄養液など)の混合操作を実施 できる。(技能) ◎注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙 できる。(知識)	実習	○			2		1 注1		90 x 10			口頭・観察 での確認	
H123	◎毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの注射剤の調剤と適切な 取扱いができる。(知識・技能)	実習	○			1				90 x 1			口頭・観察 での確認	

LS	到達目標(SBOs)	学習方法	場所			人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者との 関わり	備考	評価案	
			薬剤部	病棟・ 外来	その他	指導 薬剤師	補助者	教員					日々の 評価	実習の進行に 応じた評価
H124	◎細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる。 (知識) ◎特別な注意を要する注射剤(抗悪性腫瘍薬など)の取扱い を体験する。(技能)	説明・演習	○			1				90 x 2			口頭・観察 での確認	
H125	◎調剤された注射剤に対して、正しい鑑査の実務を体験 する。(知識・技能)	説明・演習	○			1				90 X2			口頭・観察 での確認	
《安全対策》														
H126	◎リスクマネジメントにおいて薬剤師が果たしている役割 を説明できる。(知識) ◎調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を 列挙できる。(知識) ◎商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な 医薬品を列挙できる。(知識)	説明・演習	○	○		1				90 x 2			口頭での確認	ペーパーテスト での確認
H127	◎医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法 を討議する。(態度) ◎インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験 をもとに、リスクマネジメントについて討議する。 (態度) ◎職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案 できる。(態度) ◎実習中に生じた諸問題(調剤ミス、過誤、事故、クレーム など)を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく 記入できる。(技能)	SGD	○			1		1 注1	OHPなど	90 x 2			観察での確認	レポート・面談 での確認

注1 教員の参加が望ましい。

(2) 医薬品を動かす・確保する

学生数は1施設に5名以内

LS	到達目標(SBOs)	学習方法	場所			人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者との 関わり	備考	評価案	
			薬剤部	病棟・ 外来	その他	指導 薬剤師	補助者	教員					日々の 評価	実習の進行に 応じた評価
《医薬品の管理・供給・保存》														
H201	◎医薬品管理の流れを概説できる。(知識) ◎医薬品の適正在庫の意義を説明できる。(知識) ◎納品から使用までの医薬品の動きに係わる人達の仕事を 見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。(知識)	説明・見学	○		薬の保 管され ている 場所	2				90 X 2			口頭での確認	
H202	◎医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明 できる。(知識)	説明・実習	○			1				90 x 2			口頭での確認	
H203	◎納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目を列挙 できる。(知識) ◎同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて 具体例を列挙できる。(知識)	説明・演習	○			1				90 X 3			口頭での確認	
H204	◎院内における医薬品の供給方法について説明できる。 (知識) ◎請求のあった医薬品を取り揃えることができる。(技能)	説明・実習	○			1		1 注1		90 X 3			口頭・観察 での確認	

LS	到達目標 (SB0s)	学習方法	場所			人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者との 関わり	備考	評価案	
			薬剤部	病棟・ 外来	その他	指導 薬剤師	補助者	教員					日々の 評価	実習の進行に 応じた評価
《特別な配慮を要する医薬品》														
H205	◎麻薬・向精神薬および覚せい剤原料の取扱いを体験する。(技能) ◎毒薬、劇薬を適切に取り扱うことができる。(技能) ◎血漿分画製剤の取扱いを体験する。(技能) ◎法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。(態度)	説明・実習	○			1		1 注1		90 X 3			観察での確認	
《医薬品の採用・使用中》														
H206	◎医薬品の採用と使用中止の手続きを説明できる。(知識) ◎代表的な同種・同効薬を列挙できる。(知識)	説明・演習	○			1		1 注1	OHPなど	90 X 1			口頭での確認	

注1 教員の参加が望ましい。

(3) 情報を正しく使う

学生数は1施設に5名以内

LS	到達目標 (SB0s)	学習方法	場所			人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者との 関わり	備考	評価案	
			薬剤部	病棟・ 外来	その他	指導 薬剤師	補助者	教員					日々の 評価	実習の進行に 応じた評価
《病院での医薬品情報》														
H301	◎医薬品情報源のなかで、当該病院で使用しているものの種類と特徴を説明できる。(知識) ◎院内への医薬品情報提供の手段、方法を概説できる。(知識) ◎緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法について説明できる。(知識) ◎患者、医療スタッフへの情報提供における留意点を列挙できる。(知識)	説明	○			1			プリント ・コン ピュータ	90 x 1			口頭での確認	
《情報の入手・評価・加工》														
H302	◎医薬品の基本的な情報を、文献、MR(医薬情報担当者)などの様々な情報源から収集できる。(技能)	演習・実習	○			1	MR1		プリント ・コン ピュータ	90 x 10		副作用、 疑義照会 など	観察での確認	
H303	◎DIニュースなどを作成するために、医薬品情報の評価、加工を体験する。(技能)	実習	○			2			コン ピュータ	90 x 10			観察での確認	
H304	◎医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)	演習	○			1			プリント 報告用紙	90 x 3			口頭・観察 での確認	
《情報提供》														
H305	◎医療スタッフからの質問に対する適切な報告書の作成を体験する。(知識・技能) ◎医療スタッフのニーズに合った情報提供を体験する。(技能・態度)	実習	○	○		2			プリント ・コン ピュータ	90 x 10			口頭・観察 での確認	
H306	◎患者のニーズに合った情報の収集、加工および提供を体験する。(技能・態度)	実習	○	○		2			プリント	90 x 3	○		観察での確認	
H307	◎情報提供内容が適切か否かを追跡できる。(技能)	実習		○		1				90 x 3			観察での確認	

(4) ベッドサイドで学ぶ

学生数は1施設に5名以内

LS	到達目標(SBOs)	学習方法	場所			人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者との 関わり	備考	評価案	
			薬剤部	病棟・ 外来	その他	指導 薬剤師	補助者	教員					日々の 評価	実習の進行に 応じた評価
《病棟業務の概説》														
H401	<ul style="list-style-type: none"> ◎病棟業務における薬剤師の業務（薬剤管理、与薬、リスクマネジメント、供給管理など）を概説できる。（知識） ◎薬剤師の業務内容について、正確に記録をとり、報告することの目的を説明できる。（知識） ◎病棟における薬剤の管理と取扱いを体験する。（知識・技能・態度） 	説明・見学	○	○		1			プリント ・OHP	90 x 5	○		口頭・観察 での確認	
《医療チームへの参加》														
H402	<ul style="list-style-type: none"> ◎医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる。（技能） ◎病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケーションする。（技能・態度） 	実習		○		2	医師1 看護師 1			90 x 10		60min x 週2回 x 4週間 x 2病棟 注2	観察での確認	
《薬剤管理指導業務》														
H403	<ul style="list-style-type: none"> ◎診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる。（技能） ◎報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した情報を正確に記載できる（薬歴、服薬指導歴など）。（技能） ◎収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。（技能） ◎患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。（技能） 	実習		○		2	医師1 看護師 1			90 x 18		60min x 週3回 x 4週間 x 2病棟 注2	観察での確認	
H404	<ul style="list-style-type: none"> ◎使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる。（知識） ◎臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。（知識） 	実習	○	○		2				90 x 8		90min x 週1回 x 4週間 x 2病棟 注2	口頭での確認	
H405	<ul style="list-style-type: none"> ◎医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する。（技能・態度） ◎患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する。（技能・態度） ◎薬に関する患者の質問に分かり易く答える。（技能・態度） ◎患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる。（知識・技能） ◎代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる。（知識・技能） ◎代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から気づくことができる。（知識・技能） ◎患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニケーションを実施できる。（技能・態度） ◎患者に共感的態度で接する。（態度） 	実習		○		2				90 x 18	○	60min x 週3回 x 4週間 x 2病棟 注2	口頭・観察 での確認	
H406	<ul style="list-style-type: none"> ◎患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる。（技能） 	実習	○	○		2	医師1 看護師 1			90 x 15		60min x 週3回 x 4週間 x 2病棟 注2	観察での確認	実地試験での確認

LS	到達目標 (SB0s)	学習方法	場所			人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者との 関わり	備考	評価案	
			薬剤部	病棟・ 外来	その他	指導 薬剤師	補助者	教員					日々の 評価	実習の進行に 応じた評価
H407	◎期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する。(知識・技能) ◎副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する。(知識・態度)	実習または 演習	○			1				90 × 2			口頭・観察 での確認	
《処方支援への関与》														
H408	◎治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感じとる。(態度) ◎適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する。(態度)	見学・SGD		○	○	2	医師1 看護師 1	1 注1	プリント ・OHP	90 × 5			観察での確認	レポート・面談 での確認

注1 教員の参加が望ましい。

注2 系統の異なる疾患の患者が入院する病棟で、それぞれ4週間を目安に患者を担当することが望ましい(例:内科疾患と外科疾患、慢性疾患と急性疾患など)

(5) 薬剤を造る・調べる

学生数は1施設に5名以内

LS	到達目標 (SB0s)	学習方法	場所			人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者との 関わり	備考	評価案	
			薬剤部	病棟・ 外来	その他	指導 薬剤師	補助者	教員					日々の 評価	実習の進行に 応じた評価
《院内で調製する製剤》														
H501	◎院内製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。(軟膏、坐剤、散剤、液状製剤(消毒薬を含む)など)(技能)	実習	○			1				90 × 20			観察での確認	
H502	◎無菌製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。(点眼液、注射液など)(技能)													
《薬物モニタリング》														
H503	◎実際の患者例に基づきTDMのデータを解析し、薬物治療の適正化について討議する。(技能・態度)	実習または 演習	○		○	1			OHP、 プリント	90 × 5			観察での確認	
《中毒医療への貢献》														
H504	◎薬物中毒患者の中毒原因物質の検出方法と解毒方法について討議する。(知識、態度)	演習、SGD	○		○	1			関連資料 プリント	90 × 2		選択	口頭・観察 での確認	

(6) 医療人としての薬剤師

学生数は1施設に5名以内

LS	到達目標 (SB0s)	学習方法	場所			人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者との 関わり	備考	評価案	
			薬剤部	病棟・ 外来	その他	指導 薬剤師	補助者	教員					日々の 評価	実習の進行に 応じた評価
H601	◎患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。(態度) ◎患者にとって薬に関する窓口である薬剤師の果たすべき役割を討議し、その重要性を感じとる。(態度) ◎患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度) ◎生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度) ◎医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。(態度) ◎職務上知り得た情報について守秘義務を守る。(態度)	SGD			○	2			OHP	90 × 3			観察での確認	レポート・面談 での確認

注1 教員の参加が望ましい。

(Ⅲ) 薬局実習方略ならびに評価(案)

(1) 薬局アイテムと管理

学生数は1施設2名以内

実施時期	LS	到達目標	学習方法	場所				物的資源 (例示)	時間	患者、顧客 との関わり	備考	評価案		
				薬局	指導 薬剤師	補助者	教員					日々の評価	実習の進行に 応じた評価	
《薬局アイテムの流れ》														
I 期始め (1st wk)	P101	◎薬局で取り扱うアイテムが医療の中で果たす役割について説明できる。(知識) ◎薬局で取り扱うアイテムの保健・衛生、生活の質の向上に果たす役割を説明できる。(知識) ◎薬局アイテムの流通機構に係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。(知識)	説明	○	1		1 注1		90 x 3			口頭での確認		
《薬局製剤》														
	P102	◎代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説できる。(知識)	説明	○	1			資料 テキスト	90 x 1			口頭での確認		
	P103	◎代表的な薬局製剤・漢方製剤を調製できる。(技能)	実習	○	1				90 x 2		選択(他施設 へ依頼も考慮)	観察での確認		
《薬局アイテムの管理と保存》														
	P104 △	◎医薬品の適正在庫とその意義を説明できる。(知識) ◎納入医薬品の検取を体験し、そのチェック項目(使用期限ロットなど)を列挙できる。(知識) ◎薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握し、実務を体験する。(知識・技能)	説明・実習	○	1				90 x 4			口頭・観察 での確認		
《特別な配慮を要する医薬品》														
	P105 △	◎麻薬、向精神薬などの規制医薬品の取扱いについて説明できる。(知識) ◎毒物、劇物の取扱いについて説明できる。(知識) ◎法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。(態度)	説明・見学				1		90 x 1			口頭・観察 での確認	ペーパーテストでの 確認	

注1 教員の参加が望ましい。

(2) 情報のアクセスと活用

学生数は1施設2名以内

実施時期	LS	到達目標	学習方法	場所				物的資源 (例示)	時間	患者、顧客 との関わり	備考	評価案		
				薬局	指導 薬剤師	補助者	教員					日々の評価	実習の進行に 応じた評価	
《薬剤師の心構え》														
実習期間 を通して	P201	◎医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。(態度) ◎職務上知り得た情報について守秘義務を守る。(態度)	討議	○	1		1 注1	各大学における 関連資料 薬局で提供され る資料	90 x 2			観察での確認	レポート・面談 での確認	
《情報の入手と加工》														
	P202 △	◎医薬品の基本的な情報源(厚生労働省、日本製薬工業協会、製薬企業、日本薬剤師会、卸など)の種類と特徴を正しく理解し、適切に選択できる。(知識・技能) ◎基本的な医薬品情報(警告、禁忌、効能、副作用、相互作用など)を収集できる。(技能)	討議・演習	○	1		MR1 MS1	書籍 情報提供資料 インターネット 患者説明用リー フレット 添付文書 処方せん	90 x 5			口頭・観察 での確認		
	P203	◎処方内容から得られる患者情報を的確に把握できる。(技能)	演習	○	1			添付文書 処方せん	90 x 5			観察での確認		
	P204	◎薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる。(技能)	演習	○	1			薬歴簿	90 x 5			観察での確認		
	P205 △	◎緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法を説明できる。(知識)	説明・演習 実習	○	1			各種関連 情報	90 x 2			口頭での確認		
	P206 △	◎問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる。(知識・技能)	演習	○	1			問い合わせ事例 書籍 情報提供資料 インターネット 患者説明用リー フレット	90 x 3		報告書の様式は 自由	口頭・観察 での確認		
	P207 △	◎医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に必要な事項を記載できる。(知識・技能)	演習・実習	○	1			事例 報告用紙	90 x 2			口頭・観察 での確認		

実施時期	LS	到達目標	学習方法	場所		人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者、顧客との関わり	備考	評価案		
				薬局	指 導 薬 剤 師	補 助 者	教 員	日々の評価					実習の進行に応じた評価		
《情報の提供》															
	P208	◎入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)	演習	○	1				書籍 情報提供資料 インターネット 患者説明用リーフレット	90 x 2				観察での確認	
	P209	◎入手した患者情報を、必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる。(技能・態度)	演習	○	1				必要に応じた資料	90 x 3				観察での確認	
	P210 △	◎患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。(態度)	討議	○	1					90 x 3				観察での確認	レポート・面談での確認

注1 教員の参加が望ましい。

(3) 薬局調剤を実践する

学生数は1施設2名以内

実施時期	LS	到達目標	学習方法	場所		人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者、顧客との関わり	備考	評価案		
				薬局	指 導 薬 剤 師	補 助 者	教 員	日々の評価					実習の進行に応じた評価		
《保険調剤業務の全体の流れ》															
	P301	◎保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。(知識) ◎保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる。(知識)	説明・見学	○	1				プリント	90 x 2				口頭での確認	
《処方せんの受付》															
I 期	P302	◎処方せん(麻薬を含む)の形式および記載事項について説明できる。(知識) ◎処方せん受付時の対応および注意事項(患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など)について説明できる。(知識) ◎初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。(知識)	説明・実習	○	1				処方せん	90 x 2	患者			口頭での確認	
I 期	P303	◎初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる。(知識)	説明	○	1				薬歴・質問表	90 x 1				口頭での確認	
I 期	P304 △	◎処方せん受付時の対応ができる。(技能・態度) ◎生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度) ◎患者が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度) ◎患者との会話などを通じて、服薬上の問題点(服薬状況、副作用の発現など)を把握できる。(技能)	実習		1					90 x 7	患者	見学(5分x12枚) →ロールプレイ (新患、再来など15分x6ケース) →実際に(15分x20ケース)		観察での確認	
《処方せんの鑑査と疑義照会》															
I 期	P305 △	◎処方せんが正しく記載されていることを確認できる。(技能) ◎処方せんに記載された処方薬の妥当性を、医薬品名、分量、用法、用量、薬物相互作用などの知識に基づいて判断できる。(知識・技能)	実習	○	1				処方せん 添付文書等 コンピュータ	90 x 2				口頭・観察での確認	
I 期	P306	◎薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。(知識・技能)	実習	○	1				薬歴簿 処方せん	90 x 2	患者	15分x12枚		口頭・観察での確認	
I 期	P307	◎疑義照会の行い方を身につける。(知識・技能・態度)	説明・見学	○	1				薬歴簿 処方せん 調剤録	90 x 1				口頭・観察での確認	
I 期	P308	◎疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。(知識・技能・態度)	演習(ロールプレイ)	○	1				薬歴簿 処方せん 調剤録	90 x 1			全期間を通じて事例があったときに薬剤師の対応を見学する。	口頭・観察での確認	

実施時期	LS	到達目標	学習方法	場所		人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者、顧客 との関わり	備考	評価案	
				薬局	指導薬剤師	補助者	教員	日々の評価					実習の進行に 応じた評価	
《計数・計量調剤》														
I～II期	P309 △	◎薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる。(知識)	説明・実習	○	1				薬袋・薬札	90 x 1			口頭での確認	
I～II期	P310 △	◎処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。(技能) ◎錠剤、カプセル剤などの計数調剤ができる。(技能) ◎代表的な医薬品の剤形を列挙できる。(知識) ◎医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。(知識) ◎代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。(知識) ◎同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。(知識) ◎異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。(知識) ◎代表的な同種・同効薬を列挙できる。(知識) ◎代表的な医薬品の色・形、識別コードから識別できる。(技能)	実習・演習	○	1				処方せん	90x10		錠剤、カプセル剤の処方せんに標準30枚以上。ただし、学生の到達度に応じて変更する。	口頭・観察での確認	
I期	P311 △	◎一回量(一包化)調剤を必要とするケースについて説明できる。(知識) ◎一回量(一包化)調剤を実施できる。(技能)	説明・実習	○	1				薬歴簿 処方せん	90 x 1			口頭・観察での確認	
I期	P312 △	◎錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)	説明・実習	○	1				資料	90 x 1			口頭・観察での確認	
I期	P313 △	◎散剤、液剤などの計量調剤ができる。(技能) ◎調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的取扱いができる。(技能)	説明・実習	○	1				処方せん	90 x 5		散剤、液剤の処方せんに標準10枚以上。ただし、学生の到達度に応じて変更する。	観察での確認	
I期	P314 △	◎毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤と取扱いができる。(技能) ◎特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能)	実習	○	1					90 x 1			観察での確認	
《計数・計量調剤の鑑査》														
I～III期	P315 △	◎調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)	説明・実習	○	1				薬歴簿 処方せん・資料	90x3			観察での確認	実地試験での確認
《服薬指導の基礎》														
I期 (1～2w)	P316 △	◎適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる。(知識・技能)	説明・演習	○	1					90 x 1			口頭・観察での確認	
I期 (1～2w)	P317 △	◎薬歴管理の意義と重要性を説明できる。(知識) ◎薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる。(知識・技能) ◎薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。(知識)	説明・演習	○	1					90 x 5			口頭・観察での確認	
I期 (1～2w)	P318 △	◎妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる。(知識)	説明	○	1				資料	90 x 1			口頭での確認	
I期 (1～2w)	P319 △	◎患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。(技能)	説明・実習	○	1				資料	90 x 2			観察での確認	
I期 (1～2w)	P320 △	◎自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。(知識・技能)	説明・演習	○	1				ビデオ	90 x 2		医療廃棄物の処理など	口頭・観察での確認	
《服薬指導入門実習》														
II期	P321 △	◎指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる。(技能) ◎薬歴簿を活用した服薬指導ができる。(技能) ◎患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる。(技能) ◎お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる。(技能)	見学・実習	○	1					90x12	患者	STEP#1: 見学 STEP#2: シミュレート 注2	観察での確認	実地試験での確認

実施時期	LS	到達目標	学習方法	場所		人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者、顧客との関わり	備考	評価案	
				薬局	指 導 薬 剤 師	補 助 者	教 員	日々の評価					実習の進捗に応じた評価	
《服薬指導実践実習》														
Ⅲ期	P322 △	◎患者に共感の態度で接する。(態度) ◎患者との会話を通じて病態、服薬状況(コンプライアンス)、服薬上の問題点などを把握できる。(技能) ◎患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる。(技能・態度) ◎患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する。(技能・態度) ◎入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)	実習	○	1		1 注1			90x40	患者	STEP #3 指導薬剤師指導 下での実践 (実際にする) 注2	観察での確認	実地試験での確認
《調剤録と処方せんの保管・管理》														
I期	P323	◎調剤録の法的規制について説明できる。(知識) ◎調剤録への記入事項について説明できる。(知識) ◎調剤録の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。(知識)	説明	○	1					90 x 1			口頭での確認	
I期	P324	◎調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。(知識)	説明	○	1					90 x 0.5			口頭での確認	
I期	P325	◎処方せんの保管、管理の方法、期間などについて説明できる。(知識)	説明	○	1					90 x 0.5			口頭での確認	
《調剤報酬》														
I期 ～II期	P326	◎調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書(レセプト)を作成できる。(技能)	説明・演習	○	1					90 x 5			観察での確認	実地試験での確認
I期	P327	◎薬剤師の技術評価の対象について説明できる。(知識)	説明・演習	○	1					90 x 2			口頭での確認	
《安全対策》														
I期	P328 △	◎代表的な医療事故訴訟あるいは調剤過誤事例について調査し、その原因について指導薬剤師と話し合う。(知識・態度)	討議	○	1			事例集		90 x 1			口頭・観察での確認	
I期	P329 △	◎名称あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。(知識)	説明・実習	○	1			資料 (テキスト)		90 x 2			口頭での確認	
I期	P330 △	◎特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、抗糖尿病薬など)を列挙できる。(知識)	説明・実習	○	1			資料 (テキスト)		90 x 1			口頭での確認	
I期	P331 △	◎調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。(知識)	説明・実習	○	1			資料 (テキスト)		90 x 1			口頭での確認	
I期	P332 △	◎調剤中に過誤が起こりやすいポイントについて討議する。(態度) ◎過誤が生じたときの対応策を討議する。(態度)	討議	○	1			事例集		90 x 1			観察での確認	
I期	P333 △	◎インシデント、アクシデント報告の記載方法を説明できる。(知識)	講義・演習	○	1					90 x 1			口頭での確認	

注1 教員の参加が望ましい。

注2 STEP #1 見学(指導薬剤師の仕事を見る)概算:10分/患者1人x18人=180分=90分x2 レポート 90分x4 指導薬剤師との討議・反省 90分x2

STEP #2 指導薬剤師の横についてどう説明するか(立案・構成をしてみる) 概算:10分/患者1人+20分/立案(リアルタイムで)x9人=270分=90分x3 指導薬剤師との討議・反省 90分x1

STEP #3 指導薬剤師の指導下でコミュニケーションの実践(実際にする)

(4) 薬局カウンターで学ぶ

学生数は1施設2名以内

実施時期	LS	到達目標	学習方法	場所		人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者、顧客との関わり	備考	評価案	
				薬局	指 導 薬 剤 師	補 助 者	教 員	日々の評価					実習の進捗に応じた評価	
《患者・顧客との接遇》														
I期	P401	◎かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う。(態度) ◎患者、顧客に対して適切な態度で接する。(態度)	討議	○	1		1 注1	各大学の関連資料、薬局で提供される資料		90 x 2			観察での確認	
II期	P402	◎疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度)	演習	○	1			関連資料		90 x 2			観察での確認	
II期	P403	◎医師への受診勧告を適切に行うことができる。(技能・態度)	演習	○	1			関連資料		90 x 2			観察での確認	

実施時期	LS	到達目標	学習方法	場所		人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者、顧客との関わり	備考	評価案	
				薬局	指図書 薬剤師	補助者	教員	日々の評価					実習の進行に 応じた評価	
《一般用医薬品・医療用具・健康食品》														
Ⅱ期	P404	◎セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる。(技能)	演習	○	1				当該商品	90 x 5			観察での確認	
Ⅱ期	P405	◎顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。(知識)	演習	○	1				関連資料	90 x 2			口頭での確認	
《カウンター実習》														
Ⅱ期	P406	顧客対応実習： ◎顧客が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度) ◎顧客が必要とする情報を的確に把握する。(技能・態度) ◎顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる。(技能・態度) ◎入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)	実習・演習	○	1				当該商品	90 x 50	顧客	約50名の顧客と対応をする。一般医薬品を扱っていない場合は他の一般用医薬品を扱う薬局で実習を行う(必修)。	観察での確認	実地試験での確認
	P407	健康管理実習： ◎疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度) ◎セルフメディケーションのための一般用医薬品・医療用具などを適切に選択・供給できる。(技能) ◎医師への受診勧告を適切に行うことができる。(技能・態度) ◎患者・顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。(知識)											口頭・観察での確認	

注1 教員の参加が望ましい。

(5) 地域で活躍する薬剤師

学生数は1施設2名以内

実施時期	LS	到達目標	学習方法	場所		人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者、顧客との関わり	備考	評価案	
				薬局	指図書 薬剤師	補助者	教員	日々の評価					実習の進行に 応じた評価	
《在宅医療》														
	P501	◎訪問薬剤管理指導業務について説明できる。(知識) ◎在宅医療における医療廃棄物の取り扱いについて説明できる。(知識)	説明・見学	○	1				退院情報、関連資料・用品	90 x 2	可能な限り患者特老、老健などを見学する。		口頭での確認	
	P502	◎薬剤師が在宅医療に関わることの意義を指導薬剤師と話し合う。(態度)	討議	○	1					90 x 1			観察での確認	
《地域医療・地域福祉》														
	P503	◎病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。(知識)	説明・討議	○	1					90x1			口頭での確認	
	P504	◎当該地域における休日、夜間診療と薬剤師の役割を説明できる。(知識)	説明・見学	○	1	休日急病診療所				90x1	夜間となる		口頭での確認	
	P505	◎当該地域での居宅介護、介護支援専門員などの医療福祉活動の状況を把握できる。(知識・技能)	説明・演習	○	1		介護支援専門員			90 x 2			口頭・観察での確認	
《災害時医療と薬剤師》														
	P506	◎緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。(知識)	説明	○	1					90 x 1			口頭での確認	
	P507	◎緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。(知識)	見学	○	1	防災センター、避難路、薬剤の備蓄センター				90 x 2			口頭での確認	

実施時期	LS	到達目標	学習方法	場所		人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者、顧客 との関わり	備考	評価案	
				薬局	指 導 薬 剤 師	補 助 者	教 員	日々の評価					実習の進行に 応じた評価	
《地域保健》														
	P508	◎学校薬剤師の職務を見聞し、その役割を説明できる。 (知識)	説明・見学	○	1	学校薬 剤師				90 x 2		可能な限り学校 を見学	口頭での確認	
	P509	◎地域住民に対する医薬品の適正使用の啓発活動における 薬剤師の役割を説明できる。(知識)	説明・見学	○	1			関連資料		90 x 2			口頭での確認	
	P510	◎麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止運動における薬剤師の役割 について説明できる。(知識)	説明	○	1			関連資料		90 x 1			口頭での確認	
	P511	◎日用品に係る薬剤師の役割について説明できる。(知識) ◎日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかり やすく説明できる。(知識)	説明・演習	○	1			当該商品		90 x 1			口頭での確認	
	P512	◎誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切な アドバイスできる。(知識・技能)	説明・演習	○	1			関連資料		90 x 1			口頭・観察 での確認	
	P513	◎生活環境における消毒の概念について説明できる。 (知識)	説明・演習	○	1			当該商品		90 x 1			口頭での確認	
	P514	◎話題性のある薬物および健康問題について、科学的に わかりやすく説明できる。(知識)	説明・演習	○	1			関連資料		90 x 1			口頭での確認	
《地域対応実習》														
Ⅱ期	P515	◎日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかり やすく説明できる。(知識) ◎誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアド バイスが出来る。(知識・技能) ◎生活環境における消毒の概念について説明できる。 (知識) ◎話題性のある薬物および健康問題について、科学的に わかりやすく説明できる。(知識)	演習または 実習	○	1		1 注1	関連資料		90 x 4	顧客	SBO s のうち 1つを選ぶ。	口頭及び観察 での確認	ペーパーテスト・ 実地試験で確認

注1 教員の参加が望ましい。

(6) 薬局業務を総合的に学ぶ

学生数は1施設2名以内

実施時期	LS	到達目標	学習方法	場所		人的資源			物的資源 (例示)	時間	患者、顧客 との関わり	備考	評価案	
				薬局	指 導 薬 剤 師	補 助 者	教 員	日々の評価					実習の進行に 応じた評価	
《総合実習》														
Ⅲ期	P601	◎薬局業務を総合的に実践する。(知識・技能・態度)	実習	○	1		1 注1			90 x 25	患者・顧客	薬局における 1週間の業務を 総合的に 実践する。	口頭及び観察 での確認	ペーパーテスト・ 実地試験で確認
Ⅲ期	P602	◎患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献すること の重要性を感じとる。(態度) ◎薬が病気の治癒、進行防止を通して、病気の子後とQOLの 改善に貢献していることを感じとる。(態度)	討議	○	1		1 注1			90 x 2			観察での確認	レポート・面談 での確認

注1 教員の参加が望ましい。

実務実習モデル・コアカリキュラム

(Ⅲ) 薬局実習

評価の手引(案)

－方略表への追記－

実務実習モデル・コアカリキュラム

2. 基盤をなす評価の詳細(案)

(アドバンスワークショップ等のプロダクト)

Ver.1.1

2-1. 作成の経緯

平成 16 年 10 月に設置された「実務実習指導システム作り委員会（以下、本委員会）」では、まず実習指導システムの構築に先立ち、「実務実習モデル・コアカリキュラム」の実施に向けて検証と普及が必要であると考えた。そこで、実務実習モデル・コアカリキュラムの実施に向けて、まず大学人ができることとして、大学内で行う「実務実習事前学習」のカリキュラムについて検証することとした。検証に際し、実務実習モデル・コアカリキュラムでは、学習目標と方略は作成されているが、カリキュラムの三要素のうちの評価案がまだ作成されていなかった。そこで、カリキュラムの検証に先立ち、事前学習の評価案をアドバンスワークショップを開催して作成することにした。

実務実習事前学習の評価案作成を目的として、第四回薬学教育改革大学人会議アドバンスワークショップ「実務実習事前学習の実現に向けての評価方法作成に関する教育者ワークショップ」（平成 16 年 12 月 5 日）を薬学教育協議会と共催で開催した。参加者は、全大学の実務実習担当教員と、日本薬剤師会代表 6 名、日本病院薬剤師会代表 6 名とした。ワークショップでは小グループ討論形式で、実務実習モデル・コアカリキュラムの（Ⅰ）実務実習事前学習のうち、（2）処方せんと調剤、（3）疑義照会、（5）リスクマネジメント、（6）服薬指導と患者情報の、計 4 ユニットについて評価案を作成した。この評価案は平成 17 年 3 月に報告書としてまとめた。

続いて、実務実習モデル・コアカリキュラムの「（Ⅱ）病院実習」、「（Ⅲ）薬局実習」の評価案もアドバンスワークショップを開催して作成することとした。第五回薬学教育改革大学人会議アドバンスワークショップ「実務実習の実現に向けての評価方法作成に関するワークショップ」（平成 17 年 5 月 7, 8 日）は、日本医療薬学会医療薬学教育委員会および薬学教育協議会との共催で実施した。実務実習の評価案作成ということで、参加者は全大学の実務実習担当教員に加え、日本薬剤師会と日本病院薬剤師会から 9 名ずつ代表に参加して頂いた。ワークショップでは、病院実習の評価案を作成するグループと薬局実習の評価案を作成するグループに分かれ、それぞれ約 70 に及ぶ到達目標（SBOs）に対する評価案を作成した。評価案の作成対象は、病院実習、薬局実習ともに、「調剤に関するユニット」と「患者とのコミュニケーション」に関するユニットとした。この第五回アドバンスワークショップの報告書は、平成 17 年 10 月に各大学・関係機関などに送付すると共に、日本薬学会ホームページ内において公表中である。

以上、第四回、第五回のアドバンスワークショップにより、調剤、服薬指導などに関して、事前学習から病院実習、薬局実習に至るまでの「目標」、「方略」、「評価」のカリキュラム三要素がそろった。実務実習モデル・コアカリキュラムのユニットとしては、次の 8 ユニットに相当する。

（Ⅰ）実務実習事前学習は、（2）処方せんと調剤、（3）疑義照会、（5）リスクマネジメント、（6）服薬指導と患者情報、（Ⅱ）病院実習は、（1）病院調剤を実践する、（4）ベッドサイドで学ぶ、（Ⅲ）薬局実習は、（3）薬局調剤を実践する、（4）薬局カウンターで学ぶ。

残りのユニットの評価案については、本委員会委員と第 5 回アドバンスワークショップ企画委員が中心となり、アドバンスワークショップの趣旨に沿って作成することとした。平成 18 年 2 月に「実務実習モデル・コアカリキュラム評価案作成作業会議」を開催し、すでに提案された評価案の妥当性を検証すると共に、残りすべての SBOs について評価方法を作成した。

このアドバンスワークショップおよび作成会議等で提案された到達目標ごとの評価案は、実務実習モデル・コアカリキュラムの“**基盤をなす評価の詳細(案)**”として、次頁以降に掲載した。先の**【評価の手引き(案)**】と合わせて、活用して頂ければ幸いである。なお大学で実施する事前学習の評価については、この“**基盤をなす評価の詳細(案)**”の活用を提案する。

2-2. 事前学習評価（案）

(I) 実務実習事前学習

(1) 事前学習を始めるにあたって

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《薬剤師業務に注目する》					
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	形成的	知識	教員	S101終了時	客観試験
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。	形成的	知識	教員	S102終了時	客観試験
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)	形成的	態度	教員・補助者	S103学習中	観察記録
《チーム医療に注目する》					
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。	形成的	知識	教員	S105終了時	客観試験
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。					
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)	形成的	態度	教員・補助者	S106学習中	観察記録
《医薬分業に注目する》					
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。	形成的	知識	教員	S107終了時	客観試験

(2) 処方せんと調剤

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《処方せんの基礎》					
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。	形成的	知識 技能	教員 補助者 学生	客観試験 学習前 S204終了時 シミュレーション (筆記型) 演習中	講義では 客観試験 演習では シミュレーション テスト(筆記型) *模擬処方せんの鑑査演習をその場でチェック
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。					
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。					
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。					
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)					
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。					
《医薬品の用法・用量》					
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。	形成的	知識 技能	教員 補助者 学生	客観試験 学習前 S208終了時 シミュレーション (筆記型) 演習中	講義では 客観試験 演習では シミュレーション テスト(筆記型) *模擬処方せんの鑑査演習をその場でチェック
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)					
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。					
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)					
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。					
《服薬指導の基礎》					
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。	形成的	知識	教員・学生	講義終了時	客観 or 論述試験
《調剤室業務入門》					
13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)	形成的	技能	教員 補助者	実習中	実地試験 (チェックリスト)
14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)					
15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)					
16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)					
17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)	形成的	態度	教員、補助者 学生	学習中	観察記録 (チェックリスト) レポート

(3) 疑義照会

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《疑義照会の意義と根拠》					
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。	形成的	知識	教員	S303終了時	客観 OR 論述
2. 代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。	形成的	知識	教員	S303終了時	客観
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)	形成的	技能	教員 補助者	S302実習中 S302終了時	観察記録 レポート
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。	形成的	知識	教員	S303終了時	客観

《疑義照会入門》					
5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)	形成的	技能 態度	教員 実習終了学生 (TA)	S304中	観察記録
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。	形成的	知識	教員	S305終了時	客観
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。					
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。					
9. 疑義照会の流れを説明できる。	形成的	技能 態度	教員 指導薬剤師	S306中	観察記録
10. 疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)					

(4) 医薬品の管理と供給

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《医薬品の安定性に注目する》					
1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	形成的	知識	教員	S401開始時に プレテスト S402終了時に ポストテスト	客観試験
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。					
《特別な配慮を要する医薬品》					
3. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。	形成的	知識	教員	S403開始時に プレテスト S406終了時に ポストテスト	客観試験
4. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。					
5. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。					
6. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。					
7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。					
8. 生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。	形成的	技能	教員	S406実習中	観察記録
9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)					
10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。					
11. 放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。	形成的	知識	教員	S407終了時	客観試験
《製剤化の基礎》					
12. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	形成的	知識	教員	S408終了時	客観試験
13. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	形成的	知識	教員	S409終了時	客観試験
14. 代表的な院内製剤を調製できる。(技能)	形成的	技能	教員 補助者	S410実習中	観察記録
15. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	教員 補助者	S411開始時に プレテスト (客観) S411実習中	客観試験(開始時) 観察記録 または 実地試験
16. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)					
《注射剤と輸液》					
17. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。	形成的	知識	教員	S412終了時	客観試験
18. 代表的な配合変化を検出できる。(技能)	形成的	技能	教員 補助者	S412実習中	観察記録 レポート
19. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。	形成的	知識	教員	S413終了時	客観試験
20. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)	形成的	技能	教員 補助者	S413実習中	シミュレーション (筆記型):計算 観察記録:ミキシング
《消毒薬》					
21. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。	形成的	知識	教員	S414終了時	客観試験
22. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。					

(5) リスクマネージメント

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《安全管理に注目する》					
1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。	形成的	知識	教員	S501中に プレテスト ポストテスト S504終了時	客観
2. 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。	形成的	知識	教員	S504終了時	客観
3. 院内感染の回避方法について説明できる。					
《副作用に注目する》					
4. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。	形成的	知識	教員	S504終了時 S505中	客観 論述
《リスクマネージメント入門》					
5. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。	形成的	知識	教員	S506,S507中	口頭
6. リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)	形成的	態度	教員 指導薬剤師	S506,S507中	観察記録
7. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)					

(6) 服薬指導と患者情報

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《服薬指導に必要な技能と態度》					
1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。	形成的	知識	教員	LS606の プレテスト	論述試験
2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。					
3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。					
4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)	形成的	知識 技能 態度	教員、SP	演習終了後	レポート (チェックリスト 形式)
5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)					
6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)	形成的	知識	教員	LS606の プレテスト	論述試験
7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。					
《患者情報の重要性に注目する》					
8. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。	形成的	知識	教員	LS606の プレテスト	論述試験
9. 患者背景、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。(技能)					
10. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。					
《服薬指導入門》					
11. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。(知識・技能)	形成的	知識 技能 態度	学習者 教員 (非常勤講師 含む)	演習中	チェックリスト (講評) 評価尺度 レポート提出
12. 共感的態度で患者インタビューを行う。(技能・態度)					
13. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能)					
14. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。(技能)					

(7) 事前学習のまとめ

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
◎代表的な処方せん例の鑑査を行うことができる。(技能)	形成的	技能・ 態度	教員・ 補助者・ (薬剤師)	S701学習中	実地試験
◎疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)					
◎処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)					
◎処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)					
◎調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)					
◎患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能)					

2-3. 病院実習評価 (案)

(II) 病院実習

(1) 病院調剤を実践する

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《病院調剤業務の全体の流れ》					
1. 患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる。 2. 病院内での患者情報の流れを図式化できる。 3. 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。 4. 薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる。 5. 処方せん（外来、入院患者を含む）の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる。 6. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 教員 (努力目標) 学生	口頭はH101、H102の間に随時行う。その際に図式等はメモにより行う。レポートの場合は、H101、H102の終了時に提出。	口頭試験 (必要に応じ評価表・レポートも併用)
《計数・計量調剤》					
7. 処方せん（麻薬、注射剤を含む）の形式、種類および記載事項について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	H103の間に随時行う。	口頭試験 (必要に応じ評価表)
8 [△] . 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量など）が整っているか確認できる。 9 [△] . 代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。 10 [△] . 薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	H104の間に随時行う。	口頭試験 (必要に応じ評価表)
11 [△] . 適切な疑義照会の実務を体験する。	形成的	知識 技能 態度	指導薬剤師 学生	H105の演習中	観察記録
12 [△] . 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる。	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	H106の実習中	口頭試験 (必要に応じ評価表)
13 [△] . 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。（技能） 14 [△] . 錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	H107の実習中 (途中と終了時に複数回実施)	観察記録
15 [△] . 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	H107の実習中 (途中と終了時に複数回実施)	口頭試験 (必要に応じ評価表)
16 [△] . 代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	H107の実習中 (途中と終了時に複数回実施)	実地試験
17 [△] . 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。 18 [△] . 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。 19 [△] . 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	H107の実習中 (途中と終了時に複数回実施)	口頭試験 (必要に応じ評価表)
20 [△] . 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	H108の実習中	観察記録
21 [△] . 一回量（一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	H109の実習中	知識は口頭試験 技能は観察記録
22 [△] . 散剤、液剤などの計量調剤ができる。（技能） 23 [△] . 調剤機器（秤量器、分包機など）の基本的な取扱いができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	H110の実習中	観察記録
24 [△] . 細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる。 25 [△] . 特別な注意を要する医薬品（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能）	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	H111の学習中	知識は口頭試験 技能は観察記録
26 [△] . 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	H112の実習中	知識は口頭試験 技能は観察記録
27 [△] . 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。（技能）	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	H113の学習中	知識は口頭試験 技能は観察記録

《服薬指導》					
28 [△] . 患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる。 (知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	H114の実習中 (複数回実施)	実地試験 (プロダクトを評価)
29 [△] . 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの 取扱い方を説明できる。	形成的	知識 (技能)	指導薬剤師	H115とH116 の実習中 (複数回実施)	口頭試験 (実地試験)
30 [△] . 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その 取扱い方を説明できる。	形成的	知識 (技能)	指導薬剤師	H115とH116 の実習中 (複数回実施)	口頭試験 (実地試験)
31 [△] . お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法および 使用上の注意について適切に説明できる。	形成的	知識 技能 態度	指導薬剤師	H117の実習中 (複数回実施)	観察記録
32 [△] . 期待する効果が十分に現れていないか、あるいは副作用が 疑われる場合のお薬受け渡し窓口における対処法について 提案する。(知識・態度)	形成的	知識 態度	指導薬剤師 教員 (努力目標)	H117の実習中 (複数回実施)	知識は口頭試験 態度は観察記録
《注射剤調剤》					
33. 注射剤調剤の流れを概説できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H118の終了時	口頭
34. 注射処方せんの記事事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が 整っているか確認できる。(技能) 35. 代表的な注射剤処方せんについて、処方内容が適正であるか 判断できる。(技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	H119の実習中	口頭試験 観察記録
36. 処方せんの記事に従って正しく注射剤の取りそろえができる。 (知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	H121の実習中	知識は口頭試験 技能は観察記録
37. 注射剤(高カロリー栄養輸液など)の混合操作を実施できる。 (技能) 38. 注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。	形成的	知識 技能	指導薬剤師	H122の実習中	知識は口頭試験 技能は観察記録
39. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの注射剤の調剤と適切な取扱いが できる。(技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	H123の実習中	知識は口頭試験 技能は観察記録
40. 細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H124の実習中	口頭試験
41. 特別な注意を要する注射剤(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを 体験する。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	H124の実習中	観察記録
42. 調剤された注射剤に対して、正しい鑑査の実務を体験する。 (技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	H125の実習中	知識は口頭、 技能は観察記録 を用いる。
《安全対策》					
43 [△] . リスクマネジメントにおいて薬剤師が果たしている役割を 説明できる。 44 [△] . 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を 列挙できる。 45 [△] . 商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を 列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H126の終了時	口頭 (チェックリスト)
46 [△] . 医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法を 討議する。(態度) 47 [△] . インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験を もとに、リスクマネジメントについて討議する。(態度) 48 [△] . 職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる。 (態度)	形成的	態度	指導薬剤師 教員 (努力目標)	H127の終了時	レポート 観察記録
49 [△] . 実習中に生じた諸問題(調剤ミス、過誤、事故、クレームなど) を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく記入できる。 (技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師 教員 (努力目標)	H127の終了時	実地試験(フォーマ ットに記載する)

(2) 医薬品を動かす・確保する

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《医薬品の管理・供給・保存》					
1. 医薬品管理の流れを概説できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H201の実習中	口頭試験
2 [△] . 医薬品の適正在庫の意義を説明できる。					
3. 納品から使用までの医薬品の動きに係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。					
4. 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H202の実習中	口頭試験
5 [△] . 納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H203の実習中	口頭試験
6 [△] . 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H203の実習中	レポート
7. 院内における医薬品の供給方法について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H204の実習中	口頭試験
8. 請求のあった医薬品を取り揃えることができる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	H204の実習中	観察記録
《特別な配慮を要する医薬品》					
9 [△] . 麻薬・向精神薬および覚せい剤原料の取扱いを体験する。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	H205の実習中	観察記録
10 [△] . 毒薬、劇薬を適切に取り扱うことができる。(技能)					
11. 血漿分画製剤の取扱いを体験する。(技能)					
12 [△] . 法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	H205の終了時	レポート
《医薬品の採用・使用中止》					
13. 医薬品の採用と使用中止の手続きを説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H206の実習中	口頭試験
14. 代表的な同種・同効薬を列挙できる。					

(3) 情報を正しく使う

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《病院での医薬品情報》					
1. 医薬品情報源のなかで、当該病院で使用しているものの種類と特徴を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H301終了時	口頭試験 または 客観試験
2. 院内への医薬品情報提供の手段、方法を概説できる。					
3 [△] . 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法について説明できる。					
4. 患者、医療スタッフへの情報提供における留意点を列挙できる。					
《情報の入手・評価・加工》					
5 [△] . 医薬品の基本的な情報を、文献、MR(医薬情報担当者)などの様々な情報源から収集できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	H302 演習・実習中	実地試験 口頭試験
6. DIニュースなどを作成するために、医薬品情報の評価、加工を体験する。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	H303 実習中	実地試験 (プロダクトを評価)
7 [△] . 医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	H304 実習中	実地試験 (プロダクトを評価)
《情報提供》					
8. 医療スタッフからの質問に対する適切な報告書の作成を体験する。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	H305 実習中	実地試験 (プロダクトを評価)
9. 医療スタッフのニーズに合った情報提供を体験する。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	H305 実習中	観察記録
10. 患者のニーズに合った情報の収集、加工および提供を体験する。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	H306 実習中	実地試験 (プロダクトを評価) 観察記録
11. 情報提供内容が適切か否かを追跡できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	H307 実習中	実地試験 (口頭で確認)

(4) ベッドサイドで学ぶ

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《病棟業務の概説》					
1. 病棟業務における薬剤師の業務(薬剤管理、与薬、リスクマネジメント、供給管理など)を概説できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H401実習中	口頭試験
2. 薬剤師の業務内容について、正確に記録をとり、報告することの目的を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H401実習中	口頭試験
3. 病棟における薬剤の管理と取扱いを体験する。(知識・技能・態度)	形成的	知識 技能 態度	指導薬剤師	H401実習中	観察記録
《医療チームへの参加》					
4. 医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	実習中随時	観察記録 口頭試験
5. 病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケーションする。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師 (状況に応じて医療スタッフ)	実習中随時	観察記録 口頭試験
《薬剤管理指導業務》					
6. 診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	実習中随時	観察記録 レポート
7. 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した情報を正確に記載できる(薬歴、服薬指導歴など)。(技能)					
8. 収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。(技能)					
9. 患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。(技能)	形成的	知識	指導薬剤師	実習中随時	口頭試験 レポート(具体的な症例に対して)
10. 使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる。					
11. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。					
12. 医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する。(技能・態度)	形成的	技能	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	観察記録
13. 患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する。(技能・態度)					
14. 薬に関する患者の質問に分かり易く答える。(技能・態度)					
15. 患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	口頭試験 観察記録
16. 代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる。(知識・技能)					
17. 代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から、気づくことができる。(知識・技能)					
18. 患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニケーションを実施できる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	観察記録
19. 患者に共感的態度で接する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	観察記録
20. 患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	実地試験 (プロダクトの評価)
21. 期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	口頭試験 実地試験
22. 副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する。(知識・態度)	形成的	知識 態度	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	口頭試験 実地試験
《処方支援への関与》					
23. 治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感じとる。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	H408実習中 実習後	観察記録 レポート
24. 適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師 (大学の事情により教員)	H408実習中 実習終了時	観察記録 レポート

(5) 薬剤を造る・調べる

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《院内で調製する製剤》					
1. 院内製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。(軟膏、坐剤、散剤、液状製剤(消毒薬を含む)など)(技能)	形成的	技能	指導薬剤師 学生	H501実習中	実地試験
2. 無菌製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。(点眼液、注射液など)(技能)	形成的	技能	指導薬剤師 学生	H502実習中	実地試験
《薬物モニタリング》					
3. 実際の患者例に基づきTDMのデータを解析し、薬物治療の適正化について討議する。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	H503実習中	実地試験 (データ解析) 観察記録 (討議時の態度を 観察記録)
《中毒医療への貢献》					
4. 薬物中毒患者の中毒原因物質の検出方法と解毒方法について討議する。(知識、態度)	形成的	知識 態度	指導薬剤師	H503実習中	口頭試験 観察記録

(6) 医療人としての薬剤師

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1. 患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師 学生 教員	H601学習中 H601終了時	口頭試験 観察記録 (実務実習まとめの 討議と発表時の 質疑応答時) レポート
2. 患者にとって薬に関する窓口である薬剤師の果たすべき役割を討議し、その重要性を感じとる。(態度)					
3. 患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)					
4. 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度)					
5. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。(態度)					
6. 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。(態度)					

2-4. 薬局実習評価（案）

(Ⅲ) 薬局実習

(1) 薬局アイテムと管理

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《薬局アイテムの流れ》					
1. 薬局で取り扱うアイテムが医療の中で果たす役割について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 教員 (努力目標)	I期の始め (1wk)	口頭試験
2. 薬局で取り扱うアイテムの保健・衛生、生活の質の向上に果たす役割を説明できる。					
3. 薬局アイテムの流通機構に係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。					
《薬局製剤》					
4. 代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P102終了時	口頭試験または 論述試験
5. 代表的な薬局製剤・漢方製剤を調製できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	P103実習中	実地試験
《薬局アイテムの管理と保存》					
6 [△] . 医薬品の適正在庫とその意義を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P104学習中	口頭試験 または 論述試験
7 [△] . 納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目(使用期限、ロットなど)を列挙できる。					
8. 薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握し、実務を体験する。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	I期終了時	実地試験
《特別な配慮を要する医薬品》					
9 [△] . 麻薬、向精神薬などの規制医薬品の取扱いについて説明できる。	形成的	知識 態度	指導薬剤師	P105終了時	口頭試験 および レポート (日誌に記載)
10 [△] . 毒物、劇物の取扱いについて説明できる。					
11 [△] . 法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。(態度)					

(2) 情報のアクセスと活用

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《薬剤師の心構え》					
1. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師・ 教員	実習期間を通して	観察記録
2. 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。(態度)					
《情報の入手と加工》					
3 [△] . 医薬品の基本的な情報源(厚生労働省、日本製薬工業協会、製薬企業、日本薬剤師会、卸など)の種類と特徴を正しく理解し、適切に選択できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	P202学習中	シミュレーション (筆記型)
4 [△] . 基本的な医薬品情報(警告、禁忌、効能、副作用、相互作用など)を収集できる。(技能)					
5. 処方内容から得られる患者情報を的確に把握できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	P203学習中	シミュレーション (筆記型)
6. 薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	P204学習中	シミュレーション (筆記型)
7 [△] . 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P205終了時	口頭試験
8 [△] . 問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	P206学習中	シミュレーション (筆記型)
9 [△] . 医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に必要事項を記載できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	P207学習中	シミュレーション (筆記型)
《情報の提供》					
10. 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師 学生	P208学習中	シミュレーション
11. 入手した患者情報を、必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師 学生	P209学習中	シミュレーション
12 [△] . 患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じる。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師・ 教員・学生	Ⅲ期終了時	観察記録

(3)薬局調剤を実践する

SBOs	目的	対象	測定者	時期(参考)	方法
《保険調剤業務の全体の流れ》					
1. 保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。 2. 保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる	形成的	知識	指導薬剤師 学生	P301終了時	口頭試験
《処方せんの受付》					
3. 処方せん（麻薬を含む）の形式および記載事項について説明できる。 4. 処方せん受付時の対応および注意事項（患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など）について説明できる。 5. 初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I 期終了時	口頭試験 または 論述試験
7. 処方せん受付時の対応ができる。（技能・態度） 8. 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。（態度） 9. 患者が自らすすんで話ができるように工夫する。（技能・態度） 10. 患者との会話などを通じて、服薬上の問題点（服薬状況、副作用の発現など）を把握できる。（技能）	形成的	技能 態度	指導薬剤師 学生	I 期終了時	シミュレーション または 実地試験
《処方せんの鑑査と疑義照会》					
11. 処方せんが正しく記載されていることを確認できる。（技能） 12. 処方せんに記載された処方薬の妥当性を、医薬品名、分量、用法、用量、薬物相互作用などの知識に基づいて判断できる。（知識・技能） 13. 薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。（知識・技能）	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	シミュレーション または 実地試験
14. 疑義照会の行い方を身につける。（知識・態度） 15. 疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。（技能・態度）	形成的	知識 技能 態度	指導薬剤師 学生	I 期終了時	シミュレーション
《計数・計量調剤》					
16. 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I 期始めと終了 時、II 期終了時	実地試験
17. 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそえができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期、II 期終了 時	実地試験
18. 錠剤、カプセル剤などの計数調剤ができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期始めと終了 時、II 期終了時	実地試験
19. 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。 20. 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。 21. 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。 22. 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。 23. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。 24. 代表的な同種・同効薬を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I 期始めと終了 時、II 期終了時	論述試験
25. 代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期、II 期終了 時	実地試験
26 [△] . 一回量（一包化）調剤を必要とするケースについて説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I 期終了時	口頭試験
27 [△] . 一回量（一包化）調剤を実施できる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	実地試験
28 [△] . 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	実地試験
29 [△] . 散剤、液剤などの計量調剤ができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	実地試験
30 [△] . 調剤機器（秤量器、分包機など）の基本的取扱いができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	実地試験
31 [△] . 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤と取扱いができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	シミュレーション（麻薬） および実地試験 （麻薬以外）
32 [△] . 特別な注意を要する医薬品（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	シミュレーションおよび 実地試験

《計数・計量調剤の鑑査》					
33 ⁴ . 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I期、II期、III期 終了時	実地試験
《服薬指導の基礎》					
34 ⁴ . 適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	I期(1~2w)	口頭試験および 客観試験
35. 薬歴管理の意義と重要性を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I期(1~2w)	口頭試験および 客観試験
36. 薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	I期(1~2w)	シミュレーション
37. 薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I期(1~2w)	口頭試験および 客観試験
38 ⁴ . 妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる。				I期(1~2w)	
39 ⁴ . 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I期(1~2w)	シミュレーション
40 ⁴ . 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I期(1~2w)	口頭試験および 客観試験
《服薬指導入門実習》					
41 ⁴ . 指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	II期	シミュレーション および 実地試験
42. 薬歴簿を活用した服薬指導ができる。(技能)					
43 ⁴ . 患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる。(技能)					
44. お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる。(技能)					
《服薬指導実践実習》					
45 ⁴ . 患者に共感的態度で接する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	III期	レポート(日誌に記載) および観察記録
46 ⁴ . 患者との会話を通じて病態、服薬状況(コンプライアンス)、服薬上の問題点などを把握できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	III期	レポート(日誌に記載) および観察記録
47 ⁴ . 患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	III期	レポート および 観察記録
48 ⁴ . 患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する。(技能・態度)					
49 ⁴ . 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)					
《調剤録と処方せんの保管・管理》					
50. 調剤録の法的規制について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	I期始めと終了 時	口頭試験 および 客観試験
51. 調剤録への記入事項について説明できる。					
52. 調剤録の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。					
53. 調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。					
54. 処方せんの保管、管理の方法、期間などについて説明できる。					
《調剤報酬》					
55. 調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書(レセプト)を作成できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	I期終了時、 II期終了時	実地試験
56. 薬剤師の技術評価の対象について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	I期終了時	口頭試験
《安全対策》					
57. 代表的な医療事故訴訟あるいは調剤過誤事例について調査し、その原因について指導薬剤師と話し合う。(知識・態度)	形成的	知識 態度	指導薬剤師	I期終了時	観察記録およびレ ポート(日誌に記載)
58 ⁴ . 名称あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師	I期終了時	論述試験
59 ⁴ . 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、抗糖尿病薬など)を列挙できる。					
60 ⁴ . 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。					
61 ⁴ . 調剤中に過誤が起こりやすいポイントについて討議する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	I期終了時	観察記録およびレ ポート (日誌に記載)
62 ⁴ . 過誤が生じたときの対応策を討議する。(態度)					
63 ⁴ . インシデント、アクシデント報告の記載方法を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	I期終了時	実地試験

(4) 薬局カウンターで学ぶ

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《患者・顧客との接遇》					
1. かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	I 期	レポート (日誌に記載)
2. 患者、顧客に対して適切な態度で接する。(態度)					
3. 疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	II 期	観察記録
4. 医師への受診勧告を適切に行うことができる。(技能・態度)					
《一般用医薬品・医療用具・健康食品》					
5. セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	II 期	シミュレーション
6. 顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	II 期	シミュレーション
《カウンター実習》					
7. 顧客が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師 学生 教員(努力目標)	II 期	実地試験
8. 顧客が必要とする情報を的確に把握する。(技能・態度)					
9. 顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる。(技能・態度)					
10. 入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)					

(5) 地域で活躍する薬剤師

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《在宅医療》					
1. 訪問薬剤管理指導業務について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P502終了時	口頭試験および レポート (日誌に記載)
2. 在宅医療における医療廃棄物の取り扱いについて説明できる。					
3. 薬剤師が在宅医療に関わることの意義を指導薬剤師と話し合う。(態度)	形成的	態度			
《地域医療・地域福祉》					
4. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P503終了時	口頭試験または 論述試験
5. 当該地域における休日、夜間診療と薬剤師の役割を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P504終了時	口頭試験または 論述試験
6. 当該地域での居宅介護、介護支援専門員などの医療福祉活動の状況を把握できる。(知識・技能)	形成的	知識	指導薬剤師	P505終了時	レポート (日誌に記載)
《災害時医療と薬剤師》					
7. 緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P507終了時	レポート (日誌に記載)
《地域保健》					
8. 学校薬剤師の職務を見聞し、その役割を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P508終了時	レポート (日誌に記載)
9. 地域住民に対する医薬品の適正使用の啓発活動における薬剤師の役割を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P509終了時	レポート (日誌に記載)
10. 麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止運動における薬剤師の役割について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P510終了時	レポート (日誌に記載)
11. 日用品に係る薬剤師の役割について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P511終了時	口頭試験
12. 日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかりやすく説明できる。					
13. 誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアドバイスできる。(知識・技能)	形成的	知識・ 技能	指導薬剤師	P512終了時	シミュレーション (筆記型)
14. 生活環境における消毒の概念について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P513終了時	口頭試験
15. 話題性のある薬物および健康問題について、科学的にわかりやすく説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P514終了時	レポート (日誌に記載)
◎12～15 のSBOsから一つを選択する。	形成的	知識 技能	指導薬剤師 教員	II 期終了時	観察記録および レポート

(6) 薬局業務を総合的に学ぶ

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《総合実習》					
1. 薬局業務を総合的に実践する。	形成的 (総括的)	知識 技能 態度	指導薬剤師 教員	Ⅲ期中	実地試験および 観察記録
2. 患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの 重要性を感じとる。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師 教員	Ⅲ期中	観察記録
3. 薬が病気の治癒、進行防止を通して、病気の予後とQOLの改善に 貢献していることを感じとる。(態度)					

3. 参考資料

3-1.

評価(案)作成ワークショップ・会議参加者リスト

3-2.

実務実習指導システム作り委員会 委員リスト

3-1. 評価(案)作成ワークショップ・会議参加者リスト

第四回アドバンストワークショップ（平成16年12月5日）

A	平野 剛	北海道大学	D	大島 吉輝	東北大学
	青山 隆夫	東京理科大学		石井 文由	明治薬科大学
	木津 純子	共立薬科大学		高島 亨	日本大学
	黒野 幸久	名古屋市立大学		渡邊真知子	帝京大学
	橋詰 勉	京都薬科大学		土屋 照雄	岐阜薬科大学
	前田 定秋	摂南大学		市田 成志	近畿大学
	手嶋 大輔	就実大学		川崎 博巳	岡山大学
	樋口 駿	九州大学		片岡 泰文	福岡大学
	安藤 正典	武蔵野大学		杉本 幹治	千葉科学大学
	西 洋壽	天神赤壁薬局		平松 正彦	平松十字堂薬局
	西田 英之	石川島播磨病院		川口 進一	市立池田病院
B	関川 彬	北海道医療大学	E	上野 和行	新潟薬科大学
	高柳 理早	東京薬科大学		渡邊 善照	昭和薬科大学
	石井 邦雄	北里大学		大林 雅彦	東邦大学
	赤尾 光昭	富山医科薬科大学		山田 静雄	静岡県立大学
	平田 収正	大阪大学		宮本 悦子	北陸大学
	吉富 博則	福山大学		内田 享弘	武庫川女子大学
	湯川 栄二	第一薬科大学		岡野 善郎	徳島文理大学
	有馬 英俊	熊本大学		和田 光弘	長崎大学
	富岡 佳久	城西国際大学		塚本 豊久	広島国際大学
	吉川 亨	しらすぎ薬局出町柳店		瀧川 秀	滝川薬局甲東店
	旭 満里子	信州大学附属病院		石津 雅弘	京都大学附属病院
C	竹下 光弘	東北薬科大学	F	鈴木 洋史	東京大学
	戸部 徹	昭和大学		杉山 清	星薬科大学
	石井伊都子	千葉大学		小林 大介	城西大学
	灘井 雅行	名城大学		松下 良	金沢大学
	金子 周司	京都大学		西野 隆雄	大阪薬科大学
	平井みどり	神戸薬科大学		山岡由美子	神戸学院大学
	滝口 祥令	徳島大学薬学部		小澤孝一郎	広島大学
	本屋 敏郎	九州保健福祉大学		和田 育男	青森大学
	石館 光三	帝京平成大学		大山 良治	日本薬科大学
	大原 整	(有) ひまわり薬局		日高 慎二	徳島文理香川薬学部
	後藤 順一	東北大学病院		永田 修一	桜町調剤薬局
		河本由紀子	昭生病院		

ディレクター：井上圭三（日本薬学教育改革大学人会議座長）、井村伸正（薬学教育協議会理事長）
市川 厚（日本薬学教育改革大学人会議 実務実習指導システム作り委員会委員長）
タスクフォース：中村明弘（福山大学）

相本太刀夫（摂南大学）、赤池昭紀（京都大学）、入江徹美（熊本大学）
奥 直人（静岡県立大学）、北河修治（新潟薬科大学）、工藤一郎（昭和大学）
郡 修徳（北海道薬科大学）、坂本尚夫（東北大学）、山元俊憲（昭和大学）

第五回アドバンスワークショップ（平成17年5月7,8日）

A	早川 達	北海道薬科大学	D	福永 浩司	東北大学		
	青山 隆夫	東京理科大学		榊淵 泰宏	千葉科学大学		
	菅家 甫子	共立薬科大学		吉田 久博	明治薬科大学		
	河田登美枝	武蔵野大学		中村 均	日本大学		
	田辺 光男	名古屋市立大学		渡邊真知子	帝京大学		
	橋詰 勉	京都薬科大学		脇屋 義文	北陸大学		
	前田 定秋	摂南大学		足立 哲夫	岐阜薬科大学		
	手嶋 大輔	就実大学		北小路 学	近畿大学		
	島添 隆雄	九州大学		川崎 博巳	岡山大学		
	西田 孝洋	長崎大学		原 周司	福岡大学		
	永田 泰造	日本薬剤師会		出石 啓治	日本薬剤師会		
	安部 好弘	日本薬剤師会		尾鳥 勝也	日本病院薬剤師会		
	上坂 康子	日本病院薬剤師会		木村 康浩	日本病院薬剤師会		
	関川 彬	北海道医療大学		中村 仁	東北薬科大学		
B	富岡 佳久	城西国際大学	E	上野 和行	新潟薬科大学		
	高柳 理早	東京薬科大学		田口 恭治	昭和薬科大学		
	黒山 政一	北里大学		佐藤 光利	東邦大学		
	赤尾 光昭	富山医科薬科大学		賀川 義之	静岡県立大学		
	平田 收正	大阪大学		宮本 悦子	北陸大学		
	吉富 博則	福山大学		内田 享弘	武庫川女子大学		
	飯原なおみ	徳島文理大学香川		三宅 勝志	広島国際大学		
	荒牧 弘範	第一薬科大学		岡野 善郎	徳島文理大学		
	有馬 英俊	熊本大学		樋口 駿	九州大学		
	高橋 寛	日本薬剤師会		宮崎長一郎	日本薬剤師会		
	大原 整	日本薬剤師会		高橋浩二郎	日本病院薬剤師会		
	山本 育由	日本病院薬剤師会		桂 敏也	日本病院薬剤師会		
	C	竹下 光弘		東北薬科大学	F	齋藤 久雄	青森大学
		戸部 徹		昭和大学		伊藤 晃成	東京大学
佐藤 信範		千葉大学	杉山 清	星薬科大学			
北澤 式文		帝京平成大学	大井 一弥	城西大学			
野田 幸裕		名城大学	松下 良	金沢大学			
西川 元也		京都大学	羽田 理恵	大阪薬科大学			
平井みどり		神戸薬科大学	徳山 尚吾	神戸学院大学			
土屋浩一郎		徳島大学薬学部	小澤孝一郎	広島大学			
本屋 敏郎		九州保健福祉大学	大山 良治	日本薬科大学			
平松 正彦		日本薬剤師会	永田 修一	日本薬剤師会			
曾根 清和		日本薬剤師会	白井 裕二	日本病院薬剤師会			
土屋 節夫		日本病院薬剤師会	西井 諭司	日本病院薬剤師会			

ディレクター：市川 厚（日本薬学会 薬学教育改革大学人会議 実務実習指導システム
作り委員会委員長）、緒方宏泰（日本医療薬学会 医療薬学教育委員会委員長）
井村伸正（薬学教育協議会 理事長）

オブザーバー：乾 賢一（日本医療薬学会 会頭）、森 昌平（日本薬剤師会）
関野秀人（厚生労働省）

タスクフォース：相本太刀夫（摂南大学）

入江徹美（熊本大学）、奥 直人（静岡県立大学）、工藤一郎（昭和大学）
郡 修徳（北海道薬科大学）、坂本尚夫（東北大学）、中村明弘（福山大学）
山元俊憲（昭和大学）、上村直樹（株式会社ファーマック 富士見台調剤薬局）
菅家甫子（兼参加者：共立薬科大学）、木津純子（共立薬科大学）
木内祐二（昭和大学）

実務実習指導システム作り委員会－評価案作成作業

《主催》科学研究費井上班，薬学教育改革大学人会議「実務実習指導システム作り委員会」

《日時》平成18年2月15日（水）午前9時30分～午後5時30分

《場所》日本薬学会2階A会議室，1階C会議室

《参加者》ディレクター：井上圭三（薬学教育改革大学人会議座長）

・実務実習指導システム作り委員会委員

中村明弘（福山大学），相本太刀夫（摂南大学），入江徹美（熊本大学），
北河修治（新潟薬科大学），工藤一郎（昭和大学），山元俊憲（昭和大学）

・委員以外の参加者

阿部芳廣（共立薬科大学），木内祐二（昭和大学），木津純子（共立薬科大学），
戸田 潤（昭和薬科大学），早川 達（北海道薬科大学），
平井みどり（神戸薬科大学），平田收正（大阪大学），山岡由美子（神戸学院大学），
吉富博則（福山大学）

日本薬学会薬学教育改革大学人会議 実務実習指導システム作り委員会

実務実習モデル・コアカリキュラム評価案作成ワーキンググループ

第1回「実務実習モデル・コアカリキュラムの評価（案）」の見直し作業

《日時》平成18年8月28日（月）12:30～17:30

《場所》日本薬学会2階A、B会議室

《参加者》郡 修徳（グループリーダー：北海道薬科大学）

工藤一郎（アドバイザー：昭和大学）

明石貴雄（東京医大病院）、木津純子（共立薬科大学）、高橋 寛（佐野薬局）、

中澤一純（千葉大学医学部附属病院）、中村明弘（昭和大学）、山元俊憲（昭和大学）、

吉富博則（福山大学）

3-2. 実務実習指導システム作り委員会 委員リスト

平成 16 年度実務実習指導システム作り委員会委員

市川 厚委員長（武庫川女子大学）

相本太刀夫（摂南大学），入江徹美（熊本大学），奥 直人（静岡県立大学），
北河修治（新潟薬科大学），工藤一郎（昭和大学），郡 修徳（北海道薬科大学），
坂本尚夫（東北大学），中村明弘（福山大学），山元俊憲（昭和大学）

平成 17 年度実務実習指導システム作り委員会委員

中村明弘委員長

相本太刀夫，市川 厚，入江徹美，奥 直人，北河修治，工藤一郎，郡 修徳，
坂本尚夫，山元俊憲

平成 18 年度実務実習指導システム作り委員会委員

中村明弘委員長（昭和大学）

相本太刀夫，明石貴雄（東京医大病院：日本病院薬剤師会推薦），市川 厚，入江徹美，
内野克喜（東京逡信病院：日本病院薬剤師会推薦），奥直人，
木村隆次（ハロー薬局：日本薬剤師会推薦），郡 修徳，坂本尚夫，
高橋 寛（佐野薬局：日本薬剤師会推薦），山元俊憲，吉富博則（福山大学）